

第24期 開発塾

2019年9月3日(火)開講
新規塾生募集・体験参加受付中

新商品・新事業の開発担当者に必要な条件はなにか？

成功商品の開発責任者本人が語るライブケース研究で「成功の要因」を直に学ぶ

グローバル競争の激化、IoTやAIの導入、オープンイノベーションなど商品の作り方そのものの変化、消費者ニーズの多様化と嗜好サイクルの短期化などが複雑に絡み合う今日、個々の企業経営においては競争力のある独自の「魅力ある・売れる商品」創出が強く希求されています。

「魅力ある・売れる商品」創出の最大の要は、時代の風を感じて刻一刻と変わるマーケットの動きを冷静に分析して常に新しいコンセプトを発想し、新商品・新技術を創出する「人」に尽きることはいうまでもありません。

このような人材を育成するためには、知識や理論だけではなく、生(=ライブ)のケースを可能な限り追体験(仮想開発体験)することで、開発者としての「商品・事業の構想力」、リーダーとしての「問題解決のための“知恵”と“工夫”」など、新商品・新事業開発のKFS(*Key Factor of Success*)を学ぶことが必要です。

開発塾は徹底したライブケース研究を主体とした“市場創造型”新商品・新事業開発担当者育成講座です。是非とも御社の人材育成にご活用ください。

第24期 開発塾 開催概要

- ◆期間 : 2019年9月3日～2020年6月3日(全10回)
- ◆例会会場 : 東京表参道「アイビーホール」など都内会議室 ※合宿は除く
- ◆主な受講対象 : 商品開発・新規事業・研究技術開発部門の若手担当者、グループリーダー

例会のすすめ方

■通常例会(13:00～17:00)

ゲスト講演による ライブケース発表

(90分間/13:00-14:30)

特徴的商品・事業の開発責任者自らに、
単なるサクセスストーリーだけではなく
苦労談も交えて、テーマの選定から
商品・事業化までを講演いただき、

**成功の要因と
開発推進者としての
構想力・実行力を学ぶ。**

●毎回、例会前には「事前参考資料」を提示

ゲスト講演への理解をより深め、
予め疑問点や自分なりの課題を整理していただくために、
例会通知ではライブケースに関連した参考資料を紹介します。

講師を囲んでの 質疑応答・意見交流

(60分間/14:35-15:35)

講演者との徹底した対話を通じて
事実を可能な限り浮き彫りにし、

**開発推進者しか知りえない
問題解決の
知恵と工夫を学ぶ。**

●講師への質問応答時間は、1時間

一般的な講演会とは違い、
開発塾では講師への質疑応答は60分間もあります。
講師も気づいていない「成功の要因」を引き出せるかは
質問次第です。
初めは遠慮がちだった塾生たちも、
回を重ねるごとに質問のコツをつかんでいきます。

■合宿例会(2019年11月5日(火)～6日(水)/於:静岡県「グランドホテル浜松」)

- | | |
|---------|---|
| 事前作業 | 塾生全員が「自社紹介シート」と「わが社の成功(失敗)事例レポート」を作成 |
| 合宿初日 | グループに分かれて、上記資料をもとに参加企業の事例における商品・事業開発の「成功の要件」を分析・抽出する。 |
| 合宿二日目 | 前日にまとめた研究成果を報告、指導陣の講評・アドバイスと全体討議を行い以降の例会参加にあたっての聴講ポイントを再認識する。 |
| 特別プログラム | 塾生有志による合宿地周辺企業の見学会など |

■最終例会「今期のまとめ」(2020年6月3日(水))

8件のライブケース研究、合宿、毎例会のグループ討議などすべてを結集し、各自の課題意識の下に
新商品・新事業を成功させるポイント、および開発担当・リーダーに求められる能力を掘り下げます。

＜前期実施例＞以下のテーマごとに希望者でグループ編成し、討議・発表する

- (1) 潜在ニーズの予見、アイデア発想、テーマ探索・企画
- (2) 商品コンセプト構築および開発目標の設定
- (3) R&D、設計・開発および開発途上におけるテーマ評価(含む軌道修正、中断・中止の判断と処置)
- (4) 事業化推進、市場導入のためのマーケティング

● ご派遣担当（研修部門、教育担当）の皆様へ

- ・毎回の例会通知など塾生への連絡事項は、ご派遣担当者様にもお送りします。
- ・ご派遣担当者様の、例会へのオブザーバー参加（見学）も随時可能です。
- ・「今月のまなび」「今期のまなび」は、ご派遣担当者にもご報告しますので、ご派遣いただいた塾生の学びの様子や成果、他社塾生の様子も確認いただけます。
- ・事務局では随時、ご派遣担当者様のご相談に応じます。

塾生相互の ディスカッション

（75分間／15:45-17:00、
例会後 有志懇親会）

指導陣サポートのもと、自ら発言することで
事例研究への自己の理解と
疑問を整理し、
業界・業種・年齢・経験が違う塾生同士で
異業種の発想を学ぶ。

●グループ討議と全体討議、有志懇親会

業種も業界も違うと、何を話していいのかわからない…という不安が毎年聞かれますが、回を重ねて互いの顔を覚えるにつけ、討議も活発になりますのでご安心ください。
また、限られた時間での討議と発表は、プレゼンテーションのトレーニングとしてもご活用いただけます。
例会後は懇親会も毎回実施し、塾生同士の交流を推進します。

「今月のまなび」

例会時は目の前にいるゲストの存在感に
圧倒され、グループ討議や全体討議では
気分的にも盛り上がるものですが
本塾での学びを
確実に自社の課題解決に
結びつけられるように
毎例会後に「今月のまなび」を作成、
指導陣のコメントと併せて
翌月の例会で全員分を公開します。

●今期修了時には「今期のまなび」

来年6月の修了時には、「今期のまなび」として
塾生全員の『卒業文集』を作成します。

指導陣プロフィール

◆コーディネーター

吉田 忠雄 氏 元 ソニー株式会社 執行役員 ネットワークCE開発研究所所長

1973年ソニー(株)入社。CDプレーヤーの開発・設計を担当し、1982年CDを商品化。
その後、GPSレシーバの開発などに従事しGPS応用のナビゲーションシステム開発を行う。光磁気記録を応用したCD-MOレコーダを開発した後、MDの開発プロジェクトにて技術開発を担当しMDフォーマットの開発を行い、1992年MDを商品化する。その後、MD-LP、NetMDのフォーマット開発等を行った。

村井 啓一 氏 元 キヤノン株式会社 材料技術開発研究所所長

1971年キヤノン(株)入社。中央研究所にて電子写真研究に従事した後、化成品開発部門など新規技術研究開発に関与。1986年インクジェット用ヘッド、インク、メディア開発。29年間に「研究→開発→生産」のサイクルを2回経験。2000年材料技術研究所所長。2006年同社を定年退職、2010年7月までキヤノン化成(株)技術顧問。東北大学「イノベーション創発塾」などで後進の指導にも熱心に取り組んでいる。2011年6月「創発(はぐれ)人材をさがせ～イノベーションを興す」を日本経済新聞社より上梓。

長田 正史 氏 前 三菱電機ホーム機器株式会社 常務取締役 家電製品技術部長

1974年三菱電機(株)入社。家電機器開発に従事、主に「制御・センサー」技術を軸に全ての家電品開発に従事。
製品化技術開発部グループマネージャー、本社技術部を経て住環境開発センター製品化技術開発部部長。
2007年より三菱電機ホーム機器(株) 調理技術部部長、家電製品技術部部長を経て、2012年より取締役家電製品技術部長、2017年より常務取締役家電製品技術部長を歴任。IHジャー炊飯器「本炭釜」シリーズはじめ数々のヒット商品の開発リーダーとして活躍。2018年10月退任。

浦川 卓也 氏 一般社団法人 企業研究会 顧問・MOT研究室長
元 株式会社ブリヂストン 取締役研究開発本部長

日東化学工業(株)勤務の後、1963年ブリヂストンタイヤ(株)(現(株)ブリヂストン)入社、研究開発本部研究管理部長を経て1985年より取締役研究開発本部長。免震装置をはじめとする新規事業(ノンタイヤ分野)のテーマ探索から研究開発、事業化推進の責任者として活躍。
1993年当会入職、常任参与を経て現職。2010年「イノベーションを目指す実践研究開発マネジメント」を日刊工業新聞社より上梓。

第24期 開発塾 年間スケジュール

第1回例会
9/3(火)

■ライブケース 1 / 基調講演

「マツダにおける『SKYACTIV エンジン』の開発～技術とプロセスの革新」

マツダ株式会社 シニアインバージョンフェロー 人見 光夫 氏

■オリエンテーション、グループ討議、全体討議、全体懇親会

第2回例会
10/2(水)

■ライブケース 2

「TOTOにおける『カラリ床』『魔法瓶浴槽』の開発と事業展開」

TOTO株式会社 浴室事業部浴室開発部 開発企画グループ 上席技師 北角 俊実 氏

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第3回例会
11/5(火)
5
11/6(水)

【合宿研究会】◆「各社の成功・失敗事例から学ぶ」

塾生が自社の最近の成功・失敗事例を持ち寄り、相互の意見交流により開発の成功・失敗要因を考える。

第4回例会
12/4(水)

■ライブケース 3

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第5回例会
2020年
1/8(水)

■ライブケース 4

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第6回例会
2/5(水)

■ライブケース 5

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第7回例会
3/4(水)

■ライブケース 6

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第8回例会
4/8(水)

■ライブケース 7

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第9回例会
5/13(水)

■ライブケース 8

■グループ討議、全体討議、有志懇親会

第10回例会
6/3(水)

◆「今期のまとめと総集編」

商品開発の各ステージごとに、今年期間ゲスト8人のケース研究と合宿例会を横断的に解析し、成功の要因を抽出することで、各メンバーが自社で取り組むべき課題を再認識する。

■全体懇親会、皆勤賞表彰

【第4回例会以降のライブケース(ゲスト講演)は・・・】

- ① 日経優秀製品賞受賞など最新のライブケース
- ② すでに一定の評価を確立しているヒット商品
- ③ 長期間支持されているロングセラー商品
などをバランスよく取り上げます。

◇予定しているライブケース

Xenoma「e-skin」、花王「アタック ゼロ」

コマツ「KOMTRAX」「AHS」

日清フーズ「クッキングフラワー」

三菱電機「蒸気レスIH炊飯ジャー」

良品計画「無印良品」

リコー「全天球デジタルカメラ『THETA』」 ……など

* 現在依頼中ですので、実際とは異なる場合があります

【ライブケース研究の切り口】

- 開発テーマの創出
 - ・なぜそのようなテーマに着目したか
- 商品企画と商品コンセプトの創造
 - ・商品企画の進め方、コンセプトの構築方法
 - ・差別化戦略の考え方
- 商品に具現化する技術開発
 - ・具体的な開発目標をいかに絞り込んだか
 - ・技術の壁をいかにブレイクスルーしたか
- 市場導入戦略について
 - ・いかに市場導入を進めたか
- 社内外関連部門との連携をいかに図ったか

* 例会の詳細については、毎回、事前に書面や電子メールなどでご案内致します。

* 欠席された場合は、当日の配付資料を後日郵送させていただきます。

最近の研究事例(19~23期)

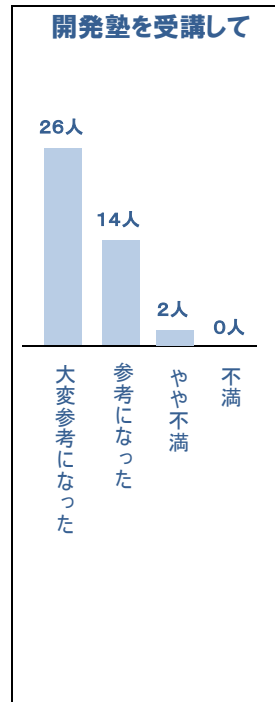
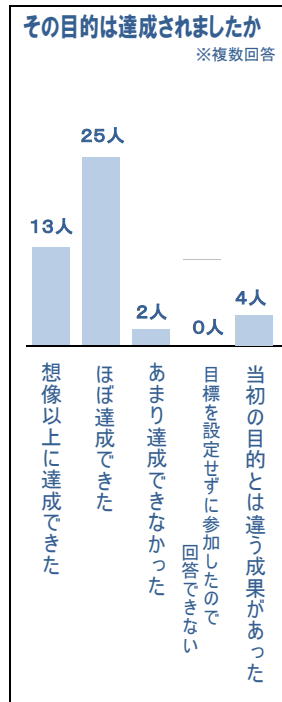
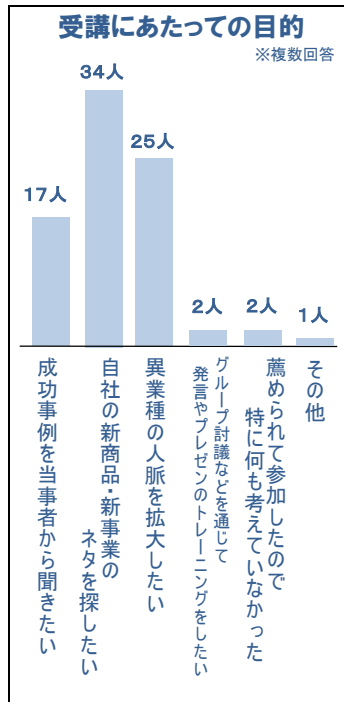
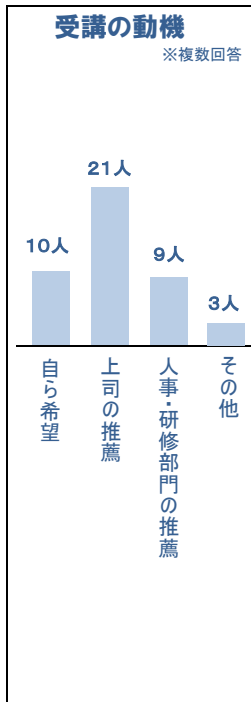
食品	味の素・冷凍食品「ギョーザ」(19期/2014年度)
	ユーグレナ・「ユーグレナ」(20期/2015年度)
	日清フーズ・「クッキングフラワー」(22~23期/2017~2018年度)
	ヤンマーアグリノバージョン・「ライスジュレ」(23期/2018年度)
家電・IT関連	三菱電機・炭炊きIHジャー炊飯器「本炭釜」(19~23期/2014~2018年度)
	リコー・全天球360度カメラ「THETA」(21~22期/2016~2017年度)
設備・機材	ブリヂストン・「建築用免震装置」(19~23期/2014~2018年度)
	昭和電工・野菜工場システム「SHIGYOユニット」(20~21期/2015~2016年度)
住宅・建築関連	TOTO・「カリリ床」と「魔法びん浴槽」(19~23期/2014~2018年度)
自動車関連	富士重工業・運転支援システム「EyeSight」(19期/2014年度)
	マツダ・「SKYACTIVEエンジン」(21期/2016年度)
	日産自動車・「NOTE e-POWER」(22期/2017年度)
戦略手法	富士フイルム・「新商品・新事業を成功に導く条件」(19~23期/2014~2018年度)
	コマツ・「KOMTRAX」「AHS」(19期、23期/2014年、2018年度)
	良品計画・「無印良品」(19~23期/2014~2018年度)
	キングジム・「テプラ」「ポメラ」(20期/2015年度)
	合宿: 自社の失敗・成功事例(1~23期/1996~2018年度)

特別例会 ~すべての卒業生が一同に集う特別見学会と懇親会

毎年夏~秋は都内会議室を飛び出し、「継続的人脈形成」「知の啓発推進を支援する場」として第1期からのすべての卒業生・ご派遣担当者・講師を対象に特別見学会と懇親会を行います。モノづくりの現場での貴重な体験、新たな人的ネットワーク構築に活用いただいております。

2004年	住友スリーエム	カスタマーテクニカルセンター
2005年	富士フイルム	「写ルンです」循環生産工場
2006年	ブリヂストン	技術センター デザインルーム、「ブリヂストンTODAY」
2007年	セコム	開発センター、IS研究所
2008年	ヤマハ発動機	コミュニケーションプラザ、オートバイ工場
2009年	東急建設	技術研究所
2010年	森永製菓	鶴見工場
2011年	ブリヂストン	東京工場、企業博物館「ブリヂストンTODAY」
2012年	コクヨ	エコライヴオフィス
2013年	キューピー	五霞工場
2014年	三井造船	千葉事業所

■ 受講後のアンケートより（前期<第23期>塾生48人中41名回答）



- ・ 成功だけ聞くと綺麗なサクセスストーリーですが、実際にはその裏で多くの失敗や挫折や、結果的にうまくいった(運?)など裏話を聞くことで、新規事業は特別な人が成功する訳ではないことが良くわかり、新規事業開発を頑張ろうと良い刺激をいただきました。(電気)
- ・ 仕事に対する意識を変えることができた、一歩引いたところから担当業務に向き合うことができた(化学)

■ 卒業レポート「今期のまなび」より

森永製菓株式会社 研究所未来価値創造センター 第一グループ 山口 貴裕氏(第23期修了)

他社の成功事例を聴くこと、それ自体にどれほどの意味があるのか。当初はあまり深く考えることもなく参加した。ライブケースを聴いて、なるほどすごいなと思うことがあり、回を重ねると成功事例に共通項があることもわかってきた。しかし、どこかに引っ掛かりがあった。過去の成功事例を聴いていても変化の激しい現在でどれだけ活かせるのか？今振り返ると、表面的な共通項にばかり目がいって、それがどこまで役に立つのか腑に落ちていなかったのだと思う。

年明けの例会後の懇親会の際に、たまたまその場にいた塾生7人で二次会に行くことになった。ライブケースを聴くと少し気分が高揚していることもあり、普段は自分から誘ったりしないほうだが、まわりも同じように少し高揚気味なのかなと思って誘ってみたのである。

その二次会でも途中からライブケースの話題になり、不思議と盛り上がった。例会の議論の時には口に出さないような発言があると、「自分もそう思っていた！」とみんなも口を揃えて言う。そういう「実は・・・」の笑話が一通り終わってからも次々と議論が続く。誰かが例会中での印象的なフレーズについて話すとまわりも意見し、その印象的なフレーズがかみ砕かれて、自分の中にも入っていく、まさに腑に落ちていくような感覚があった。

それ以降、毎回二次会を行うようになった。メンバーに慣れてしまって、議論以外のバカ話をする時間が長くなることも多々あったが、ライブケースの話は必ずしていた。やはり例会中ではしないような発言もあったが、自分たちの経験や仕事に当てはめた場合の考えを話しあったり、それ以前の例会での「まなび」やコーディネーターの発言に対して言及したりして、実はその時間にこそ自分の身になる深い議論をしていたと思返される。

そんな二次会が楽しいこともあり、例会のある日(というか二次会)が待ち遠しくなっていたが、二次会での議論の甲斐もあってか、例会での議論のときも本当に議論したいことを話し、「自分なら・自社ならどうなのか？どう活かせるのか？」と考えるようになっていた。

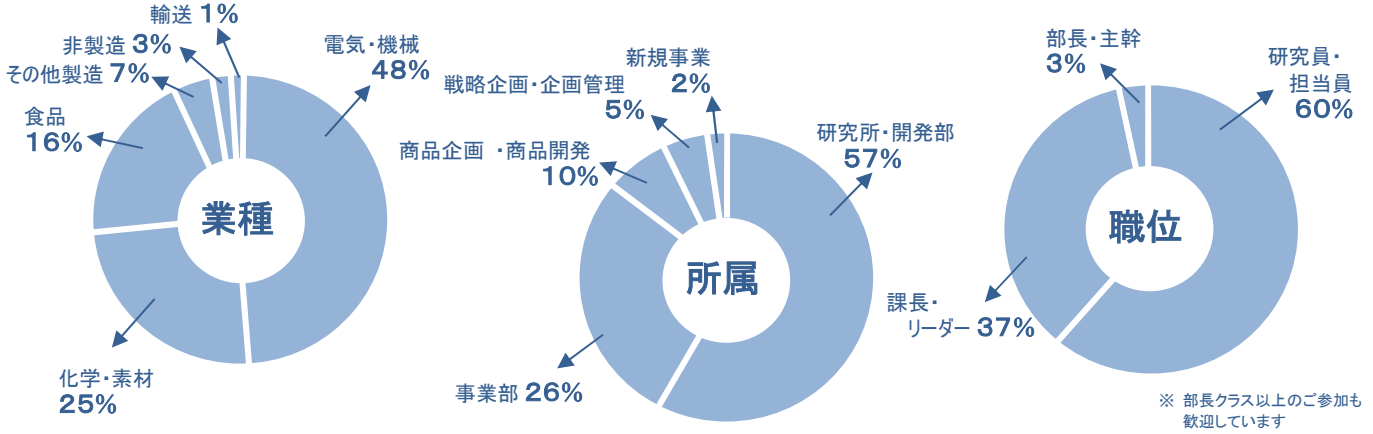
もちろん例会自体からも多くのことを学ばせて頂いた。今でも印象に残っているフレーズ、活かしたい・常に念頭に置いておきたい考えも多い。下記は、見ると当時の感情が思い起こされるものである。

「新しい未来を作りたい」と思って普段から準備しておく。／技術の進歩は止まらない。／生活を変えるほどの「価値」とは何か、その商品を手に入れた後の生活シーンがどれだけ描けるか。／単に変化を認識している状況はみな同じ、いかに危機感をもって早く動くか。／センスのある人に出会い、議論すること。／情報はどこに落ちているかわからない、見つけたらすぐにその情報にアクセスする、スピード勝負。／本質は情緒的価値、技術はあくまで手段。／アングラはやってみる。おそらく上司は反対しない。／制限を設けない、あったとしても取っ払うことまで考える。

ライブケースでは、個人の強い意志・信念・情熱が物事を押し進める原動力になっていることが多かった。まわりを巻きこみ、やりきる力。精神的にもタフさが求められる。

異なる業種だが同じような境遇にいて、自分の考えについて腹を割って議論できるメンバーに巡り合えたことは幸運である。新しいことに挑戦するとき抱えている不安が払拭され、非常に心強く感じられるようになった。その価値に気づけたことが、この開発塾の一番のまなびであると思う。これからも多くのことをまなび、実践していかねばならない。これから活かしたいことは、自分とは異なる考えをもった人との出会いを大切にしていこうである。

過去2年(21~22期)ご参加状況



第22~23期ご参加者

(株) IHエスキューブ	エンタープライズソリューション事業部デザインテクノロジーグループ	(株) 日本製鋼所	広島製作所技術開発部 複合材プロセスグループ
(株) IHエスキューブ	エンタープライズソリューション事業部プラットフォームサービスグループ	日本ゼオン (株)	研究開発本部 特命プロジェクトX1
旭化成 (株)	研究・開発本部研究開発センター膜・分離技術開発部	日本ゼオン (株)	研究開発本部 特命 X-1 プロジェクトグループ
旭化成 (株)	研究・開発本部技術政策室新事業開発部 部長代理	日本電気 (株)	IT プラットフォーム事業部主任
旭化成 (株)	研究・開発本部技術政策室新事業戦略部	日本電気 (株)	IT プラットフォーム事業部
オリンパス (株)	ET機器開発部課長代理	日本電気 (株)	クラウドプラットフォーム事業部
オリンパス (株)	画像技術部課長代理	日本電気 (株)	システムデバイス事業部
オリンパス (株)	外科内視鏡開発部課長代理	日本電気 (株)	ビジネススクレイエーション本部主任
オリンパス (株)	光学システム開発3部課長代理	日本電気 (株)	プラットフォームサービス事業部 アナリティクスサービス部
オリンパス (株)	医療撮像技術開発部 課長代理	日本電気 (株)	デジタルプラットフォーム事業部主任
オリンパス (株)	医療撮像技術開発部 課長代理	日本電気 (株)	デジタルプラットフォーム事業部主任
オリンパス (株)	科学開発5部 課長代理	日本電気 (株)	AIプラットフォーム事業部主任
オリンパス (株)	ET機器開発部 課長代理	日本電気 (株)	クラウドプラットフォーム事業部主任
オルガノ (株)	開発センター機能商品グループ係長	日本電気 (株)	クラウドプラットフォーム事業部主任
オルガノ (株)	開発センター機能商品G 課長代理	日本電気 (株)	クラウドプラットフォーム事業部主任
鹿島建設 (株)	建築管理本部建築技術部技術企画グループ課長	日本電気 (株)	クラウドプラットフォーム事業部主任
(株) ガスター	開発設計部 商品技術管理グループ 商品技術管理チーム	日本電気 (株)	システムデバイス事業部主任
キューピー (株)	研究開発本部 商品開発研究所 加工食品開発部	日本電気 (株)	プラットフォームソリューション事業部主任
キューピー (株)	研究開発本部 商品開発研究所 調味料開発部	日本電気 (株)	プラットフォームソリューション事業部主任
キューピー (株)	研究開発本部 食創造研究所 ファインケミカル開発部	日本電気 (株)	プラットフォームソリューション事業部主任
キューピー (株)	研究開発本部 食創造研究所 調理・調味料開発部	(株) PFU	ドキュメントイメージビジネスユニット 開発部第二開発部
京セラ (株)	研究開発本部室オープンイノベーション推進部オープンイノベーション推進2課	(株) PFU	ドキュメントイメージビジネスユニットイメージプロダクト事業部第三技術部
(株) クレハ	新事業創出プロジェクト	(株) PFU	フロントテクノロジービジネスユニットフロントテクノロジー事業部第二技術部
(株) クレハ	有機合成研究所 有機合成研究室	(株) PFU	ドキュメントイメージビジネスユニット ドキュメントソフトウェア事業部 第三開発部
(株) クレハ	総合研究所電池材料研究室	(株) PFU	ドキュメントイメージビジネスユニット イメージプロダクト事業部 第一技術部
(株) クレハ	プロセス開発研究所第三プロセス開発研究室	(株) PFU	エンベデッドビジネスユニット アプリケーションプロダクト事業部 第一技術部
JFEエンジニアリング (株)	技術本部 総合研究所	日立化成 (株)	イノベーション推進本部
昭和産業 (株)	基盤技術研究所分析科学研究室	富士電機 (株)	先端技術研究所エネルギー技術研究センターマネージャー
セントラル硝子 (株)	化学研究所主任	(株) プリヤストン	特殊タイヤ開発第2部 設計第6ユニット
大成ラミック (株)	デベロップセンター研究開発部研究開発課	(株) プリヤストン	欧州OEタイヤ開発部 構造設計第1ユニット
東急建設 (株)	技術研究所基礎・構造グループ	(株) プリヤストン	タイヤ材料先行開発部 先行材料開発ユニット
東急建設 (株)	技術研究所振動・音響グループ	(株) プリヤストン	次世代製品技術開発部 耐久・革新構造技術開発ユニット
豊田合成 (株)	SS技術部システム性能開発室	(株) プリヤストン	材料設計第1部 WINTER・LT材料ユニット
豊田合成 (株)	商品開発部外装開発室	ホーユー (株)	総合研究所 製品開発第二研究室係長
豊田合成 (株)	光源デバイス開発部デバイス開発室 チームリーダー	ホーユー (株)	総合研究所 製品開発第1研究室 係長
豊田合成 (株)	EM技術部EM開発室 TL	マブチモーター (株)	中型電装第一事業部開発本部第二製品開発部製品開発五グループ
トヨタ自動車 (株)	パートナーロボット部主幹	マブチモーター (株)	民生事業部 開発本部 第一製品開発部 製品開発一グループ
日清製粉 (株)	研究開発本部テクニカルセンター主査	(株) 明電舎	パワエレ技術開発部可変速開発課課長
日清製粉 (株)	研究開発本部商品開発センター	(株) 明電舎	パワエレ技術開発部可変速開発課 主任
日清フーズ (株)	加工食品事業部第一部 開発グループ	森永製菓 (株)	研究所 食品研究開発センター第二グループマネージャー
日清プレミックス (株)	R&D センター	森永製菓 (株)	研究所 未来価値創造センター
(株) 日清製粉グループ本社	技術本部 生産技術研究所 デジタル技術研究室	雪印メグミルク (株)	商品開発部
(株) 日清製粉グループ本社	基礎研究所微生物制御研究室	雪印メグミルク (株)	商品開発部
(株) 日本製鋼所	研究開発本部広島研究所材料・分析グループ	(株) LIXIL	研究戦略統括部技術戦略推進部 技術リサーチ グループリーダー
(株) 日本製鋼所	広島製作所射出機械部開発設計グループ	(株) LIXIL	技術研究所 金属・表面技術グループ グループリーダー
(株) 日本製鋼所	室蘭製作所原子力製品部原子力カグループ	(株) LIXIL	技術研究所 高機能材料グループ 樹脂材料チーム チームリーダー

「一般社団法人 企業研究会」プロフィール

昭和23年5月、敗戦後の混乱と荒廃の真只中に、当時の有力鉄鋼メーカー中堅幹部（主に経理部門）を中心に数人の学者及び経済安定本部調査課の人々からなるインフォーマルな研究懇親会が開かれました。

その後、自動車、造船、紡績、製紙などのメーカーの有志も加わってくる中で一定の事務局機構を持つフォーマルな会員相互の研究機関への構想が打ち出され、同年12月7日、経済安定本部長官邸で正式名称を「企業研究会」として創立総会が開催されました。

当初、任意団体として発足した本会も研究活動の活発化と会員の増加とに並行し、昭和31年3月31日通産大臣認可の社団法人に組織替えがおこなわれ、平成23年には一般社団法人に移行いたしました。

当会は本年、創立70周年を迎えますが、発足時から受け継がれた産・官・学共同による地道な実践研究の伝統は現在40余りの研究交流事業やビジネス・スクールでの人材養成プログラム、さらに出版・編集活動などに見られるとおり、ますます強化され、比類なき研究機関として期待を集め、多様かつ広範な活動が展開されています。当会の歩みは戦後の経済成長を達成し、近年の国際経営・福祉社会の発展を担う企業の役割と軌をひとつにしているものといえましょう。

開発塾 に関連する研修プログラムのご紹介

「やっぱりライブケースを聞く前に知識や理論を学びたい」「今までの商品・事業開発経験を整理したい」という方のために

商品開発の基礎が体系的に学べる『第10期 商品開発基礎講座』

- 8/26（月）・9/2（月）13:00-17:30 「商品開発テーマの探索・企画から開発推進・事業化」
- 9/30（月）13:00-17:30 「マーケティング戦略の基礎理論」
- 10/28（月）13:00-17:00 「商品開発・事業戦略に有効な知的財産戦略入門」

会場：東京麹町「企業研究会セミナールーム」

詳しくは企業研究会ホームページをご覧ください。[企業研究会](#) [商品開発基礎講座](#) [検索](#)

第24期 開発塾 参加要領

<体験参加について>

第1回例会（9/3）は、当塾の雰囲気などをご覧いただくため、入塾を検討中の方にもご参加いただけます。

- ◆ 年会費（受講料） 1名につき 正会員企業 259,200円 一般 280,800円 *消費税込
(本体価格 240,000円) (本体価格 260,000円)

- ・ 資料代・通信費・飲食代を含みます。
- ・ 合宿（1回につき3万5千円～4万円程度）や有志懇親会は別途参加費を申し受けます。
- ・ 分割払い、お支払時期などお気軽にご相談ください。
- ・ 何らかの事情で期途中より参加できなくなられた場合も、参加費用の返金は致しませんのでご了承ください。
- ・ 「正会員」とは、一般社団法人 企業研究会に法人会員として登録いただいている企業です。
- ・ 消費税率変更後は総額価格も変わります。

- ◆ お申込方法 ～以下のいずれかの方法でお申込下さい。（体験参加も同じです）

〔1〕 Web : ホームページよりお申込みいただけます。 [企業研究会](#) [開発塾](#) [検索](#)

〔2〕 担当者へのメール : 以下項目を担当: 薄井 usui@bri.or.jp までご送信下さい。

①御社名 ②所在地 ③参加者お名前(ふりがな) ④ご所属・お役職 ⑤E-mail ⑥TEL ⑦正式参加 or 体験参加

ご派遣担当者がおられる場合は以下も併せてお知らせ下さい。

①ご派遣担当者お名前(ふりがな) ②ご所属・お役職 ③E-mail ④TEL ⑤請求書送付先(ご参加者 or ご派遣担当者)

* ご記入いただいた個人情報は、開発塾に関する事務連絡および弊会主催事業のご案内に利用させていただきます。ご了承ください。

- ◆ 担当 一般社団法人 企業研究会 薄井・福田

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル 2階
tel:080-1393-5599・03-5215-3511 / e-mail:usui@bri.or.jp